

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析について

結果分析の詳細（中学校）

（Ⅰ）各教科に関する調査（○、●は県の平均正答率と比較し顕著な項目）

① <国語の結果分析>

- 表現の技法について理解しているかどうかをみる問題【言葉の特徴や使い方に関する事項】
- 短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題【読むこと】
- 行書の特徴を理解しているかどうかをみる問題【我が国の言語文化に関する事項】
- 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題【話すこと・聞くこと】
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる問題【読むこと】
- 文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる問題【言葉の特徴や使い方に関する事項】

〔改善に向けた取組み〕について

擬人法や体言止めなど、表現の技法について一定の定着がみられました。一方で、修飾語と被修飾語の関係や文の構成についての理解に課題がみられました。自分の考えを書く際は、伝えたいことを明確にし、効果を考えながら工夫して記述したり、読み手に伝わるかを確かめて推敲したりする学習過程を大切に指導の充実を図っていきます。また、【情報の扱い方に関する事項】においては、意見と根拠や具体と抽象など、生徒の発言の中にある情報と情報との関係について、意図的に整理して関係付ける指導を積み重ねていきます。

② <数学の結果分析>

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題【数と式】
- 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる問題【データの活用】
- 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題【図形】
- 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題【図形】

〔改善に向けた取組み〕について

【図形】領域の証明問題については、図形の構成要素に着目したり、2つの合同な図形を見つけたりしながら証明の方針を立て、それに基づいて証明できるように指導の充実を図っていきます。【データの活用】領域については、生徒自身がデータを分析する目的を明確に持てるように課題設定を工夫し、その上で四分位範囲の必要性和意味について理解を深めたり、データの分布の傾向を比較して読み取ったりする過程をとおして、批判的に考察する力を身に付けていけるように指導の充実を図っていきます。

(2) 生徒の質問調査（○、●は肯定的回答の割合の顕著な項目）

○毎日、同じくらいの時刻に起きている

○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている

●自分には、よいところがある

●困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

●分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている

●学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている

「起床時刻」の項目において、肯定的回答の割合が全体の90%以上であることから、安定した生活リズムの中で生活を送っていることが伺えます。一方で、就寝時刻が遅い生徒は、日常的に睡眠時間が短くなるため、健康状態に気をつけると同時に体調管理の注意啓発に努めていきます。また、「携帯電話やスマートフォンの使い方に関する約束」の項目において、肯定的回答の割合が県平均に比べ高い傾向にあるとともに、「約束はない」と回答した割合は低い傾向にありました。このことは、これまで取り組んできた情報モラル教育の成果であると同様です。今後も、情報モラルに関する動画配信等を含め、家庭・保護者と協力して情報モラル教育が推進できるよう指導の工夫を図っていきます。

一方で、「自己肯定感」に係る項目において、肯定的回答の割合が低い傾向にあることから、さまざまな体験や活動の中で、個々のよさを互いに発見するとともに、そのよさを伝え合うことで、それぞれの自己肯定感を高められるように努めていきます。また、「困りごとや不安がある時の相談」に係る項目において、肯定的回答の割合が県平均に比べ低い傾向にあることから、相談体制の見直しを図るとともに、普段の生徒の様子を積極的に見取り、必要に応じて教師側からアプローチするような取組みを一層充実させていきます。その他、「主体的に学習に取り組む態度」に係る項目において、肯定的回答の割合が県平均に比べ低い傾向にあることから、学習課題を明確にし、学び方の指導に重点を置いて学習過程を充実できるよう指導の工夫を図っていきます。